河内長野市【大阪府】歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業

関西地方

■協議会メンバー：河内長野市／河内長野市教育委員会／河内長野市文化振興財団／河内長野市商工会／河内長野観光ボランティア倶楽部／河内長野市郷土研究会／文化財所有者

■構想策定年度：平成二七年一二月

■補助事業期間：平成二九年九月一日～平成三〇年三月三一日

歴史文化基本構想の概要

歴史文化遺産を将来にわたり的確に保存・活用していく上で「郷土に対する関心と愛着心を喚起」し、「多様な主体が参加できる仕組みを構築」しながら継承に努める。併せて「新たな価値付けを行い地域の魅力を向上」させることを基本方針とし、「中世一山寺院とこれに関する有形・無形の歴史文化遺産群」など５つの関連遺産群を定め、９つの歴史文化遺産保存活用地区を設定した。

観光拠点形成の方向性

・訴求力のある情報発信
・案内及び説明板の多言語化
・インバウンドを意識した仕組み作り

観光に関する課題

・情報発信の不足
・外国人観光客等の受入れ環境整備（トイレの洋式化等）の充実
・観光振興の担い手不足

事業概要

近郊における情報発信事業

情報発信

関西周辺から観光客を呼び込むことを目的に、大阪府内で最も乗降客の多い阪急梅田駅を中心として情報発信を行った。発信の媒体は、低価格で多くの箇所、好位置を確保するために、デジタル媒体（デジタルサイネージ）とした。

KPI 市区町村への入込観光客数：
1,000,000人(H28)→1,200,000人(H31)

市外での講演会事業

普及啓発

観光客の来訪促進を目的に、市外で講演会を開催した。講演会は、本市の魅力の一つである中世（観心寺や金剛寺など）をテーマとし、来訪を促進させるよう古絵図、写真を多く用い可視化した内容とした。

KPI 観心寺・金剛寺の年間拝観者数：
200,000人(H28) →300,000人(H31)

中世一山寺院環境整備事業（多目的広場）

活用整備

歴史文化基本構想の歴史文化保存活用地区を周遊してもらうことを目的に、観心寺・金剛寺の各境内に、景観に配慮しながら多目的広場を整備した。

KPI 観心寺・金剛寺の年間拝観者数：
200,000人(H28) →300,000人(H31)

観光ガイド養成事業

人材育成

観光ボランティアをはじめ広く一般市民を対象として、市民と行政で協力して作り上げる観光まちづくりについて学ぶ講演会を実施した。また、その際の情報発信の重要性についても媒体の1つであるＳＮＳの効能を交えながら学んだ。

KPI 養成レポーター数：100人(H28) →200人(H31)

成果

①　市外でのＰＲで観光客数ＵＰ

都市部でのデジタルサイネージでの発信や市外での講演会の実施により、河内長野市の認知度アップにつながった。年度末の実施だったため、次年度も効果の継続が期待される。

②　ＳＮＳで市内の魅力を発信

幅広い年齢層の方が受講し、アンケートで受講者の半数以上から、積極的に情報発信をしたいとの回答を得た。今後、ＳＮＳの特性を活かした効果的、効率的な発信が期待できる。